

| | | | |
|------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| <p>結論</p> | <p>意見交流 質問・応答</p> | <p>立論</p> | <p>【学習課題】ディベートにチャレンジ！話し合い名人になろう めあて 話し合い名人の技を使ってディベートをしよう</p> |
| <p>自分の苦手なところを中心に自分のペースで学習でき 自学が自分のためになる。 宿題はなくしてもいい。</p> | <p>自分で計画的に勉強する力がつく。</p> <p>宿題をいやだと思っている小学生が多い。 友だちと遊ぶ時間が減る</p> <p>自学もしよう来役立つ</p> | <p>(理由1) 友だちと遊ぶ時間が増える いろいろな遊びができる 友情が深まる</p> <p>(理由2) 自学で自分に合った学習ができる 苦手なところ やらされるより身に付く</p> | <p>賛成側</p> |
| <p>計画的に学習するのは大変。 先生が出してくれる宿題の方が力がつく。宿題はあった方がいい。</p> | <p>何もしないとしよう来こまる</p> <p>自分で計画的に勉強するのはむずかしい。宿題より大変。</p> <p>宿題はいやだと思つときもあるし、友だちとも遊びたいけど</p> | <p>(理由1) その日の復習がしっかりできる</p> <p>(理由2) 先生が考えた宿題は効果的</p> <p>しよう来役に立つ 毎日続けると力がつく 「継続は力なり」 アンケート調査結果</p> | <p>反対側</p> |

論題 宿題はなくすべきである

根きよをはっきりさせながら相手の意見を受けて

11・12 / 12 時間目 指導略案

- 立論カード 作戦カード 司会の手引き
- 時間記録用紙 判定カード フロアメモ
- ディベートの話型表 ワークシート

活動のねらい

モデルディベートを通して学習した、よりよい話し合いの仕方を生かして、身近な論題でディベートすることができるようにする。

1 めあてを確認する。

立場と論題を確認する。
これまでの学習を振り返り、話し合い名人の技を確認させ意識付けする。
司会者・タイムキーパー・審判役には、事前に役割の確認をしておく。
フロアの児童には、フロアメモの記入の仕方を説明し、話し合い名人の技を見付け、記入するよう指示をする。

2 「論題一 小学生は午後九時以降にテレビを見ない方がよい」についてディベートする。

審判役には判定カード、フロアにはフロアメモを持たせ、友達の話し合いの仕方のよかつたところをメモさせ、判定や感想交流に生かせるようにする。
話し合いの内容が論点からそれた場合は、司会者を支援したり、方向修正させたりする。
意見交流で意見が滞ったときには、それぞれのグループに支援に入る。

3 「論題二 宿題はなくすべきである」についてディベートする。

論題一と同様に、適宜、支援を行う。

評価 根拠を明らかにしながら意見を述べたり、相手の考えを受けながら発言したりしている。

4 ディベートを振り返り、学習課題が達成できたか、意見を交流する。

ディベートを終えての感想や、学習課題「ディベートにチャレンジ！話し合い名人になろう」が達成できたかについて意見を交流する。

5 単元を振り返り、「学習で身に付いた力」や「学習の感想」をまとめ、交流する。

ワークシートに沿って、学んだことや身に付いた力について確認させ、達成感を味わわせる。
一つのディベートをするのにかかる時間は、学級で決めた進行表によって変わってくる。二つのディベートにかかる時間を見通し、残りの時間で単元の振り返りができるように計画しておくことよい。